翠したたる 大津山

学校だよりのタイトルは、学校の宝物である校歌からの抜粋で「翠したたる大津山」とさせていただきました。

文責　前田　洋志

みなさまのおかげで運動会が実施できました。

運動会の実施に向けて、感染対策はどうするのか運動場整地は間に合うか等と心配することが多くありました。実際、町外では延期の措置をとった学校もありました。しかしながら、PTA有志の方が除草作業に参加され、南関町学校運営協議会の米澤さんが何度も草刈りのため来校されました。そして、職員が時間外に毎日のように運動場を整地し、前日には、立派に運動会を迎えることができるまでになりました。本当にありがとうございました。

運動会当日も入場者制限し、地区テントなしの状態でしたが、温かい声援をいただき感謝しております。おかげで、子どもたちの輝く姿が多く見られました。

校長先生や井上先生、お母さん、お兄ちゃんとたくさんの人に教えてもらって上手なりました。

浦田　理恵　選手のお話を聞きました。

東京パラリンピック「ゴールボール」に出場され、見事銅メダルを獲得された浦田理恵選手から、「大会報告と児童生徒へのメッセージ」をいただきました。これは、母校である南関三小で実施されましたが、町内全学校へオンラインで配信されました。

浦田選手のお話は、次のとおりです。

大学在学中に視力を失った。なんで私だけと思った。トイレや外食…、できなくなることが増えた。…悲しくなって、…絶望した。

しかし、正直に伝えると、みんなが助けてくれた。勇気をもらった。

そして、見えない自分に何ができるか、さがした。それが、ゴールボールだった。ゴールボールでは、見えないことは理由にならない。言い訳できない。やるか、やらないか自分と向き合うことができた。自分があきらめなければ、自分に勝てる。そう思った。

ここまででも、すごく示唆に富むお話です。**できないことを言い訳するのでなく、やるか、やらないかと自分と向き合い、覚悟を決めて**いかれたところなど、なかなかできることではありません。この心の強さにうならされました。さらに、

世界の選手は、体格的にも大きく強く、負けそうだけど、日本の強み、チームワークをよくしてきた。声を出すことが大事で、誰かがミスしても、その人を責めるのでなく自分に何かできたはずだという思いで、「ごめん！」と言い合ってきた。そのことで、心のつながりができてきた。

壁にぶつかった時、その瞬間を大事にしてほしい。成長する、成功するチャンスかもしれない。

と話されました。**人とつながり合うことの大切さ、困難との向き合い方**等素晴らしい内容でした。

子どもたちもしっかり聞き取って感想を述べています。

「誰かがミスしても一人を責めるのではなく、みんなでごめんねと言えることがすごいと思ったからです。私は、浦田さんのようにミスをしても一人を責めないような人になりたいです。」

「ぼくは、その人のせいにしていたから自分にも今度からきびしくします。」

「浦田選手は目が不自由でもいつも笑顔ですごいと思いました。私も最後まであきらめない人になろうと思いました。」

このようにお話の大切なところを文章にできるって、素晴らしいですね。

難関を突破されている浦田選手は、笑顔いっぱいの明るい雰囲気を醸し出す素敵な方でした。